

まえがき

出生率の長期低下、高齢化、非正規社員の増加、大量なモノ造り輸出型産業に対する黄信号の点滅等、戦後復興期、高度成長期、バブル経済期を経て現在に受け継がれた我が国の経済発展に大きな変化の兆しが出始めている。科学技術創造立国を目指す我が国にとって、科学技術の推進は国家の命運をかけた最重要課題であり、このためには、優れた人材の育成と生涯にわたる能力強化が、これを支えるシステム面の整備も含めて、極めて重要である。

現在、我が国の工学教育において強く求められるのは、職業技術者の教育と学位・資格を得るための達成度の評価、学位・資格の国際的同等性等をいかに確保し、国際的に活躍できる技術者を育てられるかだと考えられる。技術のみならず、製品、貿易障壁、入札等、幅広い分野で世界標準にターゲットを合わせた展開が迫られる現状において、産業界のみならず教育界においても広い視点から従来の慣行を大きく変える時期にさしかかっている。

たとえば、従来のキャッチアップ方式の大量生産時代には、創意工夫能力が高くなくても、均質な思考ができ、グループとしてまとまった行動の取れる技術者が必要とされた。産業界の学生に対する採用基準も、やる気があるとか、人柄に重点が置かれ、入社後は社内教育で社員を育てるキャリアパスが一般的であった。しかし、グローバリゼーションの進展とともに、**Employability** という表現に端的に示されるように、専門性と深い思索、健全な倫理観を持った技術者が要請されるようになってきている。さらに、企業の経営環境が大きく変化し、企業は社員を大事に育て上げ、長期雇用を維持する体力を維持できなくなりつつあると言われている。外部労働市場の整備がまだ不十分な我が国では、個人の能力をより発揮できる機会を求めて他の多様な職場に移動するという選択肢は少ないが、今後、持続的な経済発展を継続するためには外部労働市場の拡充と労働生産性を向上させる方向に向かわざるを得ないと考えられている。

このような中で、今後、多くの技術者がプロフェッショナルとして生涯を通じて多様な働き方を選択可能とするためには、確かな技術力と倫理観を基礎とし、**Employability** を身につけることが重要になってくる。そのためには大学等高等教育機関における教育や卒業後の継続教育に対して、今後、大きな変革が必要とされている。

教育企画・人材育成委員会は、土木系分野の各教育過程における土木教育の実態や課題を把握し必要な対策を検討すると同時に、土木技術者の生涯にわたる学習継続の重要性に鑑み、教育機関、学会、民間、官庁を含めた一貫性のある技術者教育、学習システムの提案を行うため、土木界に求められる人材と教育について俯瞰的な検討を行っている。

優秀な若者が高い志を持って土木界に入ってくるようにすること、土木専攻の学生や土木技術者が社会の要請に応えるべく学び続けて成長できるようにすること、女性や成熟した技術者など多様な人材が土木界で活躍する場を増やすこと等を基本的な目的とし、土木界に求められる人材と教育に関する調査研究から政策提言に至る活動展開を図ることが目的である。

本報告書は、平成 19 年度、20 年度に教育企画・人材育成委員会が実施した各種の活動をその目的と結果と同時に、今後の活動の方向をとりまとめたものである。本報告書が、今後の教育企画・人材育成委員会の活動の参考になることを願う次第である。

最後に、教育企画・人材育成委員会の活動に際して、多大な貢献をされた多数の委員並びに幹事のご努力に対して、厚くお礼申し上げる次第である。

平成 21 年 3 月

土木学会 教育企画・人材育成委員会委員長
川島一彦